

「いじめ」に関するアンケート (集計結果) 令和5年 11月実施

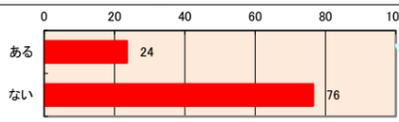


船泊小学校

調査した人数 34名

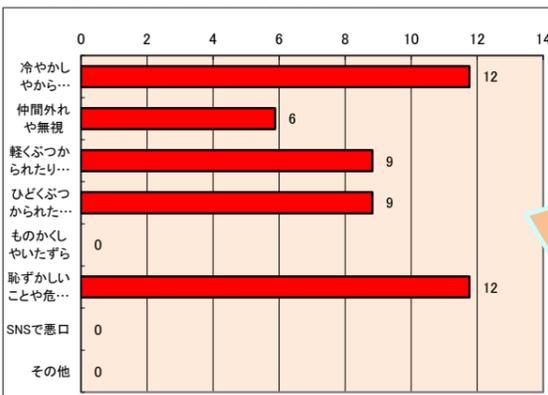
【質問1】今年の4月から今日まで、質問2のア～キのような、いやな思いをしたことがありますか

| | 人数 | 前回比 | % |
|------|----|-----|----|
| ア ある | 8 | -1 | 24 |
| イ ない | 26 | +1 | 76 |



【質問2】質問1で「ある」と答えた人は、どんなことをされましたか。(複数回答可)

| | 人数 | 前回比 | % |
|------------------------------|----|-----|----|
| ア 冷やかしかやからかい、悪口 | 4 | ±0 | 12 |
| イ 仲間外れや無視 | 2 | -2 | 6 |
| ウ 軽くぶつかられたり たたかれたり | 3 | ±0 | 9 |
| エ ひどくぶつかられたり たたかれたり、けられたり | 3 | -1 | 9 |
| オ ものかくしやいたずら | 0 | -1 | 0 |
| カ 恥ずかしいことや危険なこと | 4 | +4 | 12 |
| キ SNSで悪口 | 0 | ±0 | 0 |
| ク その他 | 0 | ±0 | 0 |



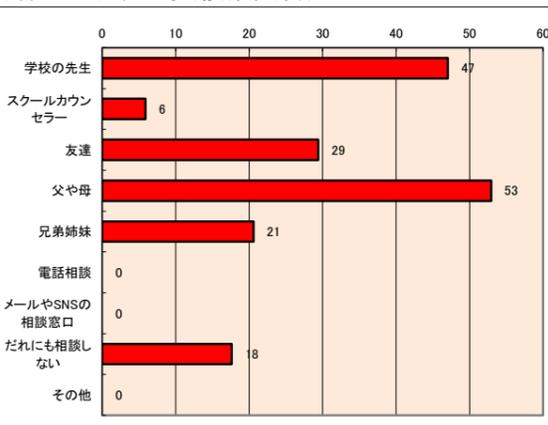
〈その他の内容〉

【質問3】質問1で「ある」と答えた人に聞きます。
そのことで、今もいやな思いをしていますか。

| | 人数 | 前回比 |
|---------|----|-----|
| ア している | 0 | -1 |
| イ していない | 8 | |

【質問4】いやな思いをした時、相談するとしたら誰にしますか。(複数回答)

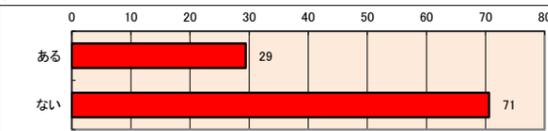
| | 人数 | 前回比 | % |
|----------------|----|-----|----|
| ア 学校の先生 | 16 | +5 | 47 |
| イ スクールカウンセラー | 2 | -1 | 6 |
| ウ 友達 | 10 | -2 | 29 |
| エ 父や母 | 18 | -5 | 53 |
| オ 兄弟姉妹 | 7 | ±0 | 21 |
| カ 電話相談 | 0 | -1 | 0 |
| キ メールやSNSの相談窓口 | 0 | ±0 | 0 |
| ク だれにも相談しない | 6 | +5 | 18 |
| ケ その他 | 0 | ±0 | 0 |



〈その他の内容〉

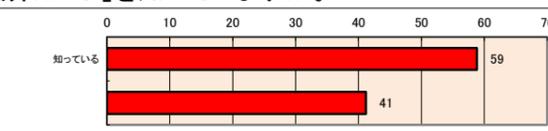
【質問5】今年の4月から今日まで、友達がいやな思いをしているのを見たり、聞いたりしたことがありますか。

| | 人数 | 前回比 | % |
|------|----|-----|----|
| ア ある | 10 | +1 | 29 |
| イ ない | 24 | -1 | 71 |



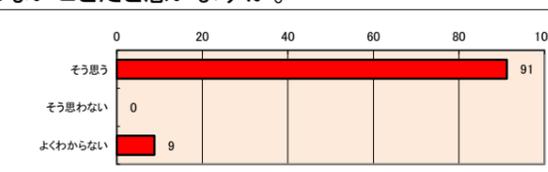
【質問6】「子ども相談支援センター電話相談紹介カード」を知っていますか。

| | 人数 | 前回比 | % |
|---------|----|-----|----|
| ア 知っている | 20 | -1 | 59 |
| イ 知らない | 14 | +1 | 41 |



【質問7】いじめはどんな理由があっても許されないことだと思いますか。

| | 人数 | 前回比 | % |
|-----------|----|-----|----|
| ア そう思う | 31 | +1 | 91 |
| イ そう思わない | 0 | ±0 | 0 |
| ウ よくわからない | 3 | -1 | 9 |



今回も「いじめ」という言葉は使わず「質問2のようないやな思い」というたずね方になっています。

【質問1】今回の調査で「ある」と答えた子は8人でした。内容としては、【質問2】のようになっています。今後も相手にいやな思いをさせてしまい、相手がいじめられたと感じたらそれは『いじめ』になるということを教え、自分も相手もお互いがいやな思いをせず、楽しく学校生活を送れるように指導していきます。

【質問3】今も嫌な思いをしている子は0人ということで、継続的、常習的ないじめは起こっていないと考えられますが、今後もいつでもいじめは起こりえる事だと認識しながら、油断することなく、学校の全職員が日常的に子供達の様子を見守っていきます。学校でもよりよい人間関係を築いていけるように継続して指導していきますので、ご家庭で気になることがありましたら、お知らせ下さい。



【質問4】児童の相談相手としては親と先生が多く、次いで友達、兄弟姉妹への相談となっています。保護者、先生や友人、家族との関係も良好であると考えています。しかし、誰にも相談しないという子も6名おり、「だれにも相談できない」という回答である可能性があることも踏まえ、学校では困ったときや苦しいときに、周りの人に、相談することの大切さを伝えていきます。

子供と最も長く接しているのは、学校の先生ですので、我々もその重要性を自覚し、子供が相談しやすい関係づくり、環境づくりに努めていきます。

お子さまから何らかのサインが出された時には、学校にもご相談いただき、家庭と学校で連携・協力し、対処していきたいと思えます。

【質問5】「ある」と回答した子が10名いました。いじめではないにせよ、言い争いや相手に対してのきつい言葉などは、まだまだあり、最終的にいじめへとつながる可能性もありますので、学級の中でも言葉づかいに気をつけるよう指導しています。今後も子ども同士によりよい関わり合いに重点をおきながら、粘り強く指導を続けていきます。

【質問6】「子ども相談支援センター電話相談紹介カード」については、知らないと答える子が7名いるので、困ったときにSOSを出せる1つの方法として、今後も機会があるごとに周知をしていきます。

【質問7】いじめはどんな理由があっても許されないかという質問に対して「そう思わない」と回答した子が0名でしたが、「よくわからない」と回答した子も3名いました。今後もいじめの理解を丁寧にを行い、『いじめはどんな理由があろうと許されないこと』という指導を継続して行っていきます。各家庭でのご指導もよろしくお願いいたします。